

**(2) 授業の見直しと質的改善を図るための手立て**

これまで、先生方は自身の日々の授業を振り返りながら教材研究を深め、生徒の実態に応じた手立てを取り入れられてきたことと思います。今回の学習指導要領の改訂は、学習の内容と方法の両方を重視して生徒の学びの過程を質的に高めていくことを目指しています。このことから、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るためには、単元など内容や時間のまとまりを見通した「課題解決な学習」を進めていくことが大事だと考えます。『中学校学習指導要領解説社会編』（平成 29 年 6 月）では、「『何を学ぶか』という学習内容と、『どのように学ぶか』という学習の過程を組み合わせる授業を考えることは、その前提となる『何ができるようになるか』を明確にするとともに、授業改善の主要な視点として重要である」<sup>(1)</sup>と示されています。

以上を踏まえて、本研究では日々の授業の質的改善を図るとき、**図 1**のような「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善のプロセスをたどり、新学習指導要領で明確に打ち出された「課題解決的な学習」を進めていくことが大事だと考えます。

『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善必要な方策等について（答申）』の中で、**表 1**のような社会科、地理歴史科、公民科における学習過程の例が示されています。

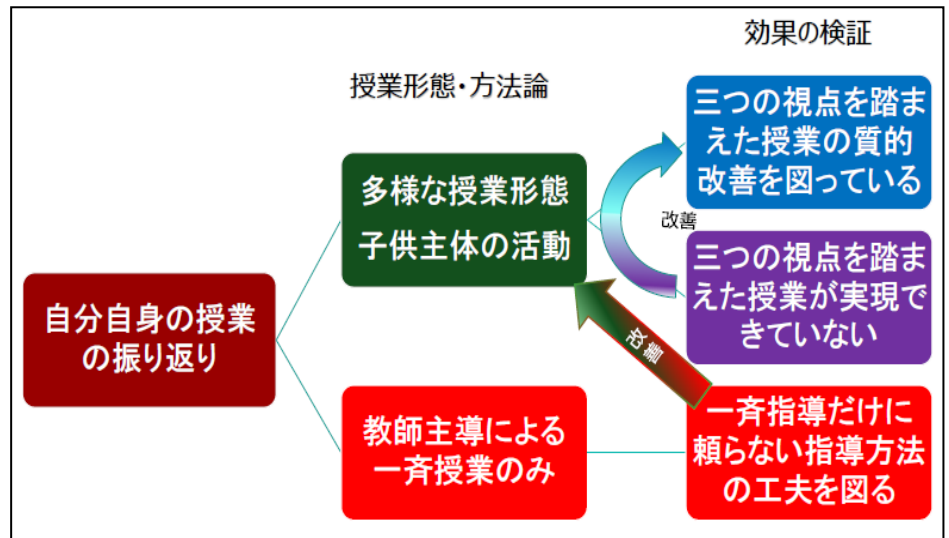


図 1 「主体的・対話的で深い学び」の三つの視点を踏まえた授業改善のプロセス

表 1 社会科、地理歴史科、公民科における学習過程の例<sup>(2)</sup>

	課題把握		課題追究		課題解決	新たな課題
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
主な学習過程の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習課題を設定する</li> <li>・社会的事象等を知る</li> <li>・気付きや疑問を出し合う</li> <li>・課題意識を醸成する</li> <li>・学習課題を設定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●課題解決の見通しを持つ</li> <li>・予想や仮説を立てる</li> <li>・調査方法、追究方法を吟味する</li> <li>・学習計画を立てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●予想や仮説の検証に向けて調べる</li> <li>・学校外での観察や調査などを通して調べる</li> <li>・様々な種類の資料を活用して調べる</li> <li>・他の児童生徒と情報を交換する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する</li> <li>・多面的・多角的に考察する</li> <li>・話し合う（討論等）</li> <li>●社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する</li> <li>・複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●考察したことや構想したことをまとめる</li> <li>・学習課題を振り返って結論をまとめる</li> <li>・結論について他の児童生徒と話し合う</li> <li>・学習課題についてレポートなどにまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習を振り返って考察する</li> <li>・自分の調べ方や学び方、結果を振り返る</li> <li>・学習成果を学校外の他者に伝える</li> <li>・新たな問い(課題)を見いだしたり追究したりする</li> </ul>

前頁表 1 のような学習過程で授業を行うためには、単元の全体像を把握し、単元を通しての（単元を貫く）学習課題を柱に授業のつながりを意識させ、問題解決的な学習となるような単元づくりが大切であると考えます。平成 27・28 年度の「プロジェクト研究」中学校社会科教育研究委員会では、図 2 のような単元の全体像を把握し、単元を貫く学習問題を柱に授業のつながりを意識させ、問題解決的な学習となるような単元づくりの研究を進めてきました。昨年度までに研究してきたこの問題解決的な学習の過程例と前頁表 1 の学習過程の例は同じであると捉えています。前頁表 1 中の「学習課題」と、図 2 中の「学習問題」は同じと捉え、本研究では「学習課題」と表します。また、「学習課題」については、本時で追究・解決する課題を「本時の学習課題」、単元を通して追究・解決する課題を「単元を貫く学習課題」と表します。

図 2 を念頭に置いて、単元づくりを行っていくことで「課題解決的な学習」につながると考えます。

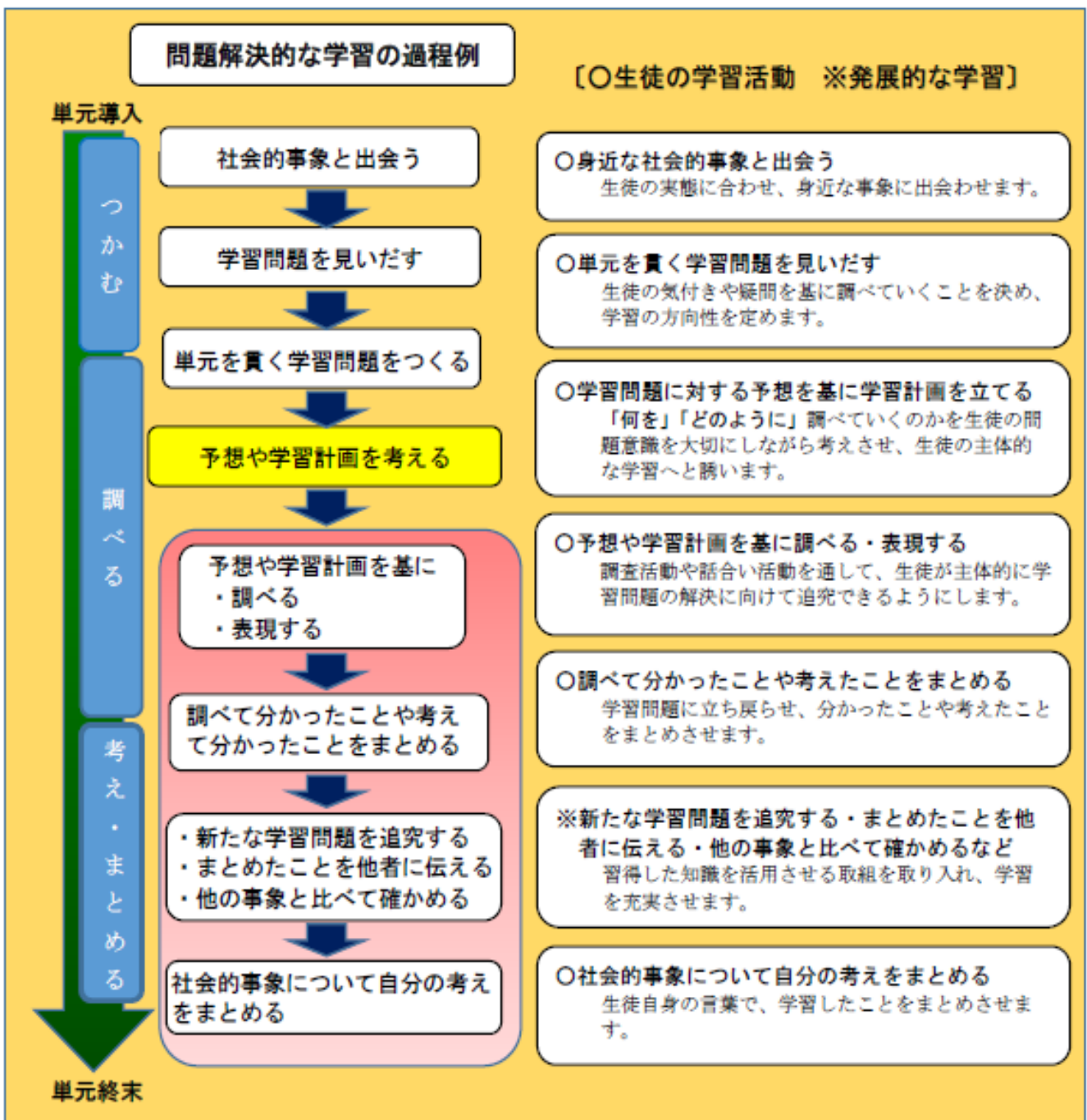
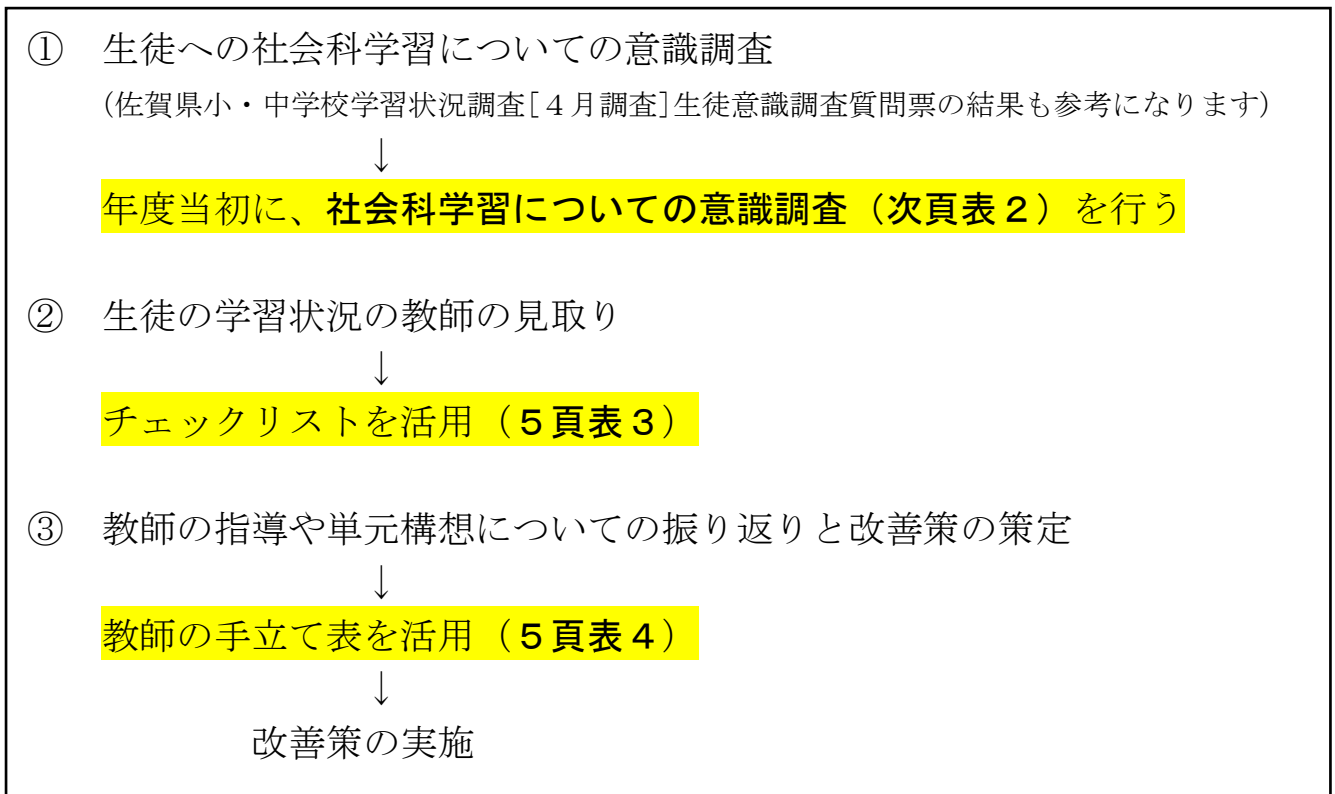


図 2 問題解決的な学習の過程例<sup>(3)</sup>

本研究委員会では、教師自身の日々の授業を振り返って、「主体的・対話的で深い学び」の視点から質的改善を図ろうとする場合、以下の①～④の流れを進めていくことにしました。



まずは生徒の実態を把握する必要があります。年度当初に、生徒への社会科学習についての意識調査(表2)を行い生徒の実態を把握しましょう。県調査意識調査の結果も、生徒の実態を知る上で参考になります。次に、生徒の実態を踏まえながら、本研究委員会が作成した「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業づくりのチェックリスト(表3)で教師自身の授業を振り返ります。その後、表3の項目のような教師の指導の実態を、本研究委員会が作成した「主体的・対話的で深い学び」の視点からの教師の手立て表(表4)と照らし合わせながら、授業の質的改善を図っていきます。表3と表4は、研究委員の学校のそれぞれの生徒の実態から考えられる教師の手立てを基に作成していますので、完成形ではありません。それぞれの学校の生徒の実態に応じて教師の手立ても変わっていきますので、表3、表4の項目は増えていくものと考えています。

表 2 社会科学習についての意識調査

(表 2 様式) [ここをクリック!](#)

<b>1 社会の勉強は好きだ。</b>	
ア 当てはまる	イ どちらかといえば、当てはまる
ウ どちらかといえば、当てはまらない	エ 当てはまらない
<b>2 社会の授業の内容はよく分かる。</b>	
ア 当てはまる	イ どちらかといえば、当てはまる
ウ どちらかといえば、当てはまらない	エ 当てはまらない
<b>3 社会の授業で、自分が調べたり、考えたりすることをはっきり分かって学習している。</b>	
ア 当てはまる	イ どちらかといえば、当てはまる
ウ どちらかといえば、当てはまらない	エ 当てはまらない
<b>4 社会の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う。</b>	
ア そう思う	イ どちらかといえば、そう思う
ウ どちらかといえば、そう思わない	エ 思わない
<b>5 社会の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う。</b>	
ア そう思う	イ どちらかといえば、そう思う
ウ どちらかといえば、そう思わない	エ 思わない
<b>6 社会の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う。</b>	
ア そう思う	イ どちらかといえば、そう思う
ウ どちらかといえば、そう思わない	エ 思わない
<b>7 社会の授業で、自分が調べて分かったことや考えたことをもとに話し合っている(討論している)。</b>	
ア 当てはまる	イ どちらかといえば、当てはまる。
ウ どちらかといえば、当てはまらない	エ 当てはまらない
<b>8 社会の授業では、生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。</b>	
ア そう思う	イ どちらかといえば、そう思う
ウ どちらかといえば、そう思わない	エ 思わない
<b>9 社会の授業で扱うノートやワークシートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていると思う。</b>	
ア そう思う	イ どちらかといえば、そう思う
ウ どちらかといえば、そう思わない	エ 思わない
<b>10 社会の授業で、調べて分かったことや考えたことを自分でまとめ、ノートやワークシートなどに書いている。</b>	
ア 当てはまる	イ どちらかといえば、当てはまる
ウ どちらかといえば、当てはまらない	エ 当てはまらない。

※ 表 2 は、『平成 29 年度佐賀県小・中学校学習状況調査[4 月調査]中学校生徒意識調査質問票』を基に作成しています。

表 3 「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業づくりのチェックリスト

(A4版) [ここをクリック!](#)

課題把握	☑	手立て (A)	課題追究	☑	手立て (B)	課題解決 新たな課題	☑	手立て (C)
本時の学習課題を設定している		A①	調べる時間を設定している		B①	まとめの時間を設定している		C①
単元を貫く学習課題を設定している		A②	調べたことを、ペアやグループで話し合わせる時間を設定している		B②③	学習課題についてノートやワークシートなどにまとめさせている		C②③
生徒と共に単元を貫く学習課題を設定している		A③	複数の資料を基に多面的・多角的に考察させている		B④	学習を振り返らせる時間を設定している		C④
単元の見通しを持たせている		A④	自分と他の生徒の考えを比較しながら話し合わせている		B⑤	結論について他の生徒と話し合わせている		C⑤⑥
予想や仮説を立てさせている		A⑤	複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断させている		B⑥	次時や次の単元につながる新たな問い(課題)を見いださせている		C⑦

表 4 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの教師の手立て表

(A4版) [ここをクリック!](#)

	課題把握		課題追究		課題解決 新たな課題	
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
主な学習過程の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習課題を設定する</li> <li>・社会的事象等を知る</li> <li>・気付きや疑問を出し合う</li> <li>・課題意識を醸成する</li> <li>・学習課題を設定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●課題解決の見通しを持つ</li> <li>・予想や仮説を立てる</li> <li>・学習計画を立てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●予想や仮説の検証に向けて調べる</li> <li>・様々な種類の資料を活用して調べる</li> <li>・他の生徒と情報を交換する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する</li> <li>・多面的・多角的に考察する</li> <li>・話し合う(討論等)</li> <li>●社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する</li> <li>・複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●考察したことや構想したことをまとめる</li> <li>・学習課題を振り返って結論をまとめる</li> <li>・結論について、他の生徒と話し合う</li> <li>・学習課題についてレポートなどにまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習を振り返って考察する</li> <li>・自分の調べ方や学び方、結果を振り返る</li> <li>・学習成果を学校外の他者に伝える</li> <li>・新たな問い(課題)を見いだしたり追究したりする</li> </ul>
教師の手立ての例	<p>A① 既習事項や前時までのつながりを意識させて本時の学習課題を設定する</p> <p>A② 資料や写真を提示して問いを持たせ、単元を貫く学習課題を設定する</p> <p>A③ テレビのニュースや新聞等を活用して身近な例を挙げ、問い返しをしながら学習課題を設定する</p> <p>A④ 学習課題の解決に向けて、電子黒板やワークシート等を活用しながら見通しを持たせ、ゴールをイメージさせる</p> <p>A⑤ 学習課題について予想や仮説を立てさせ、ゴールをイメージさせる</p>		<p>B① 学習課題を確認し、個人で調べる場を設定する</p> <p>B② ペアやグループで協働して調べる場を設定する</p> <p>B③ 役割分担(司会、発表者等)を行い、話し合いの視点を与える</p> <p>B④ 個人で考える場を設定して、複数の資料を基に様々な側面、角度から考えさせる</p> <p>B⑤ グループで、それぞれの考えとその根拠をメモさせる</p> <p>B⑥ グループで、それぞれの考えとその根拠を交換し合う中で、自分の考えを深めさせる</p>		<p>C① 問い返しをしながら授業のまとめをする</p> <p>C② ワークシートに合わせた書き方やキーワードを示してまとめさせる</p> <p>C③ 自分の考えの根拠となる資料を示させノートやワークシートにまとめさせる</p> <p>C④ 学習課題を振り返らせる時間を設定し、学習内容を振り返らせる</p> <p>C⑤ 結論についてグループで話し合わせたことを基に、レポートなどにまとめさせる</p> <p>C⑥ 問い返しをしながら、学習したことを自分たちの生活とつなげて考えさせる</p> <p>C⑦ 自分の調べ方や学び方、結果を振り返る場を設定し、新聞記事や時事問題等を取り上げ、現代の社会問題につなげる</p>	

【「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業の質的改善の手順について】

「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業づくりのチェックリスト（5頁表3）と「主体的・対話的で深い学び」の視点からの教師の手立て表（5頁表4）の使い方について説明します。

まずは、年度当初に社会科学習についての意識調査（表2）を行い、生徒の実態を確認します（佐賀県小・中学校学習状況調査〔4月調査〕中学校生徒意識調査質問票の結果も参考になります）。確認した生徒の実態を踏まえて、自身の授業を振り返り、表3の当てはまる項目に☑を入れます。☑が付かなかった項目に、表4に示した記号（A①など）の手立てを取り入れていきます。ただ、一度に全ての項目の質的改善を図ることは難しいと思われます。表3は〔課題把握〕、〔課題追究〕、〔課題解決〕の3つに大別されているので、まずは〔課題把握〕の項目から授業改善を図ってはいかがでしょうか。また、〔課題把握〕の複数の項目に☑が入らなかった場合は、生徒の実態を踏まえながら項目を絞って、以下のような手順で授業改善を図っていきましょう。

課題把握	☑	手立て (A)	課題追究	☑	手立て (B)	課題解決	新たな課題	☑	手立て (C)
本時の学習課題を設定している	☑	A①	調べる時間を設定している			学習課題を設定している			
単元を貫く学習課題を設定している		A②	話し合いの場を設けている			レポートやまとめを作成している			
生徒と共に単元を貫く学習課題を設定している		A③	複数の資料を活用している			調べる時間を設定している			
単元の見通しを持たせている		A④	自分と他者の考えを話し合わせている			話し合っている			
予想や仮説を立てさせている		A⑤	複数の資料を活用している						

（課題把握）の項目に☑が1つだけだな。まずは、左の2つの点線囲みの項目から始めてみようかな。



「単元を貫く学習課題を設定していない」ことについては、手立て表のA②を、「単元の見通しを持たせていない」ことについては、手立て表のA④を、それぞれ確認します。

課題把握		課題追究		課題解決	新たな課題
動機付け	方向付け	情報収集	考察・分析	まとめ	振り返り
<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習課題を設定する</li> <li>・社会的事象等を知る</li> <li>・気付きや疑問を出し合う</li> <li>・課題意識を醸成する</li> <li>・学習課題を設定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●課題解決の見通しを持つ</li> <li>・予想や仮説を立てる</li> <li>・学習計画を立てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●予想や仮説の検証に向けて調べる</li> <li>・様々な種類の資料を活用して調べる</li> <li>・他の児童生徒と情報を交換する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会的事象等の意義、特色や相互の関連を調べる</li> <li>・多面的・多角的に調べる</li> <li>・話し合う（討論等）</li> <li>●社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想</li> <li>・複数の立場や視点から解決に向けて選択・実行する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●考察したことや構想したことをまとめる</li> <li>・学習課題を振り返って結論をまとめる</li> <li>・結論についての児童生徒と話し合う</li> <li>・学習課題についてレポートなどにまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習を振り返って考察する</li> <li>・自分の調べ方や学び方、結果を振り返る</li> <li>・学習成果を学校外の他者に伝える</li> <li>・新たな問い（課題）を見いだしたり追究したりする</li> </ul>
<p>教師の手立て表</p> <p>A① 既習事項や前時までのつながりを意識させて本時の学習課題を設定する</p> <p>A② 資料や写真を提示して問いを生ませ、単元を貫く学習課題を設定する</p> <p>A③ テレビのニュースや新聞等を活用した身近な例を挙げ、問い返しをしながら学習課題を設定する</p> <p>A④ 学習課題の解決に向けて、電子黒板やワークシート等を活用しながら見通しを持たせ、ゴールをイメージさせる</p> <p>A⑤ 学習課題について予想や仮説を立てさせ、ゴールをイメージさせる</p>					

教師の手立て表のA②の手立てを、生徒の実態や単元に合わせて取り入れていきます。

教師の手立て表のA④の手立てを、生徒の実態や単元に合わせて取り入れていきます。

〔課題追究〕、〔課題解決〕についても、上記に示したような手順で、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業づくりのチェックリスト（5 頁表 3）と「主体的・対話的で深い学び」の視点からの教師の手立て表（5 頁表 4）を照らし合わせながら教師の手立てを取り入れていきます。

前頁で示した手順を單元ごとに行っていき、單元が終わるごとに授業の様子やワークシートの記述から生徒の実態を見取っていくことが大事です。その後、教師自身の指導を表 3 で振り返って、表 4 の教師の手立てを取り入れていきます。

このサイクルを繰り返していくことで、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業の質的改善につながっていきます。



## 引用文献

- (1) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説社会編』 平成 29 年 6 月 第 3 章 1
- (2) 中央教育審議会 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善必要な方策等について（答申）』 別添 3－6 平成 28 年 12 月
- (3) 佐賀県教育センター 『平成 27・28 年度プロジェクト研究中学校社会科』 平成 28 年 3 月  
[http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu\\_chousa/h28/01\\_jugyoukaizen/04\\_tyu\\_syakai/documents/2-2jissai\\_tunagari.pdf](http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h28/01_jugyoukaizen/04_tyu_syakai/documents/2-2jissai_tunagari.pdf)